



広報

なは市民の友

第604号 毎月1回発行

2001年(平成13年)

5月

発行・那覇市 編集・秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 •印刷(株)池宮商会

みんなできのり

ラジオ広報

「那覇市民の時間」毎週日曜日
RBC・午前9時15分から25分まで

那覇市
ホームページ
<http://www.city.naha.okinawa.jp/>



夏の到来を告げる海開き

バリアフリー
リゾートビーチで泳ごうよ

4月に入り、県内各地で「海のカニバル」が開幕し、ビーチ開きやマリーンレジャーなどのイベントが盛大に行われました。
市内唯一のビーチ「波の上ビーチ」は装いも新たに利用者にやさしいバリアフリービーチとして、4月1日にビーチ開きを行いました。
遊ぶ施設も充実し、公園を散歩しながら、または仕事帰りにひと泳ぎできる都会の中のビーチとして市民の憩いの場となっています。
利用者も年々増え去年は234,000人余りの人出で賑わいました。

今年のビーチ開きは、若狭子供会による「子どもエイサー」、波の上獅子舞愛好会による獅子舞や上ノ山中学校吹奏楽部のマーチングバンドの演奏がオープニングを飾り、テープカットと同時に子ども達は歓声をあげながら一斉に海に飛び込み初泳ぎを楽しみました。
身体にハンディを持つみなさんも水陸両用車椅子に乗り換え、水遊びやダイビング、ボート遊びで「楽しい楽しい」と大はしゃぎ。
もう夏はスタートしました。ビーチで楽しく遊びませんか。

主な紙面

- (2面) 南部広域圏北斎場(仮称)が着工
- (3面) 那覇市ふれあい植樹デー
- (4・5面) 地道な活動で
明るい社会をつくる
- (6面) 循環社会と私たちの暮らし
- (7面) 情報PACK



世界遺産

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」③

玉陵(たまうどうん)

玉陵は、第二尚氏歴代国王の墓で、第三代国王尚真(しょうしん)が見上森(みあげもり)に葬られていた父の尚円(しょうえん)を移葬するために築きました。
『琉球国由来記』(一七二三年)によれば、玉陵の墓前の広場にある「玉陵碑」が、弘治(一五〇一)年に建立されていることから、その年に創建されたとしています。
また、この碑文には、玉陵に葬られるべき人々の名が刻まれ、その人々とその子孫以外が葬られることを厳しく禁じています。国王の側室や幼くして亡くなった王子、王女は、首里山川町の「山川陵」と首里儀保町にあった「宝口(たからぐち)陵」に葬られました。

玉陵の指定面積は、二、四四二㎡で、墓室は、琉球石灰岩をくりぬいてつくり、その表面を切石などで装飾しています。
墓室は、大きく三つに分かれています。まず、東室は、板葺き屋根であった当時の首里城正殿を表し、内部には五つの部屋があり、国王および王妃、世子、世子妃が葬られています。
中室は、洗骨するまでの遺骸を安置する部屋で、西室は、「玉陵碑」に記された、国王や王妃等以外の人々が葬られました。
墓室の入口の前は、首里城正殿と同じく、縁が良いとされた鳥や獣、花々などの彫刻が施された石欄を取り付けられています。
墓室の左右および東室と中室の間には、その上に石造獅子が置かれています。中央のものは、足を踏ん張って天空を仰ぎ、いかにも勇ましい獅子です。向かって右のものは、玉紐(たまひも)をくわえて遊ぶ雄の獅子、左は子供をあやす雌の獅子で、ユーモラスな表情を見せています。

世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の中で、玉陵は、「記念工物」に位置付けられ、中国や日本など、諸外国の狭間にあって、歴史の洗礼を受けながらも、なお今日においても生き続ける、祖先への厚い信仰を象徴する墓陵として捉えられています。
(那覇市教育委員会文化財課)